

平成23年度学校経営方針

東久留米市立第十小学校

校長 酒井 賢

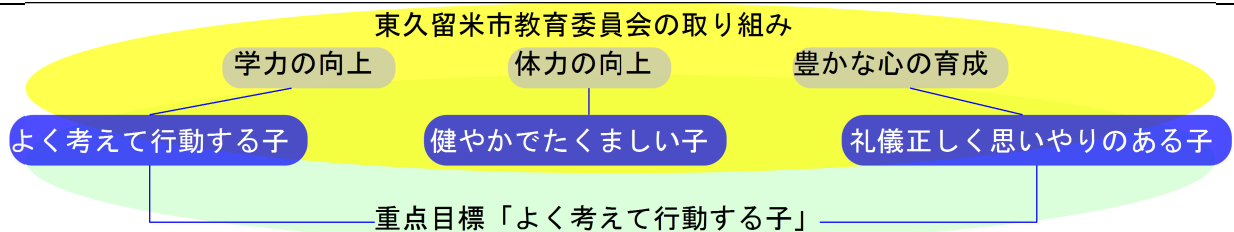
はじめに――「第十小学校の教育」の充実を目指して――

「教育は人なり」「教師が変われば、子どもが変わる」は、私の教育理念である。公教育に携わる私たちは、深い教育愛と情熱をもって子どもの個性を伸長し、可能性を最大限に引き出す使命がある。

保護者や地域の信頼に応え、地域に開かれた学校として、第十小学校の教育の充実と発展を目指して力を尽くしていきたい。

先例にとらわれず、子どもたちにとってよいと思ったことを、ごく当たり前にやれば、学校が変わり、子どもたちが変わる。私は常に、「学校は子どものためにある。」との小学校教育の原点に立ち、子どもの側に立った学校経営を推進したい。

1 学校の教育目標



2 十小が目指す学校の姿

安全は、何事にも優先する		
子どもが学ぶ喜びに満ち (わくわく) 楽しく通う学校	教職員が自覚と誇りをもって いきいきと勤務する学校	教育環境の充実に努め、 +αを目指す学校
開門を待ちわびる子ども。「先生や友達と過ごす時間が楽しい」「分かりやすく楽しい授業が待ち遠しい。」という声が聞こえる学校を目指す。	意欲的に学ぶ子どもは意欲的に学び続ける教師によって育成される。自ら学び、日々成長する教師集団をつくる。	子どもはよい環境の中で育てられる。環境は人を作る。きれいに清掃され、整頓された校舎内外。子どもを大切にシ工夫された掲示物。正しい言語環境、物的、人的環境ともに充実した、安全でうらおいのある学校でありたい。
学習の主体者である子ども一人一人を大切に、子どもを軸にして展開する学校でありたい。	十小のかけがえのない構成員の一員としての自覚と誇りを持ち、協力しあって生き生きと活動する学校でありたい。	最高の人的環境は尊敬できる教師が身近にいることである。子どもや保護者そして地域の人人から尊敬・信頼される教師でありたい。
テーマ：安心・わくわく・いきいき・そして+α		

3 十小の現状

強み	弱み
主幹教諭2名、主任教諭4名いる。 明るく素直が子供が多い。 地域は地元の住民を中心に学校に協力的である。	Closed-door
機会	脅威
校長がか変わった。 SCが配置された。 地域が主体となる行事等が多い。	Closed-door

4 基本方針

ルーチンワークの 質の向上

+ α の実行

□■子供が自ら成長し続けられるよう支援する。

- ・子供のよさや可能性。課題を共感的に理解する。
- ・子供を一人のかけがいのない人間として尊重する。
- ・基礎的・基本的な内容の定着、学び方の習得・確立を目指す。

□■教職員が切磋琢磨しつつ、
生き甲斐をもって協働する。

- ・子供と遊び、自らの体験や夢、生き方を語り、感化の教育を行う。
- ・教職員相互の学び合いと協働をとおり、一体感と目標達成の喜びを共有する。
- ・東久留米市で働き、暮らす自覚をもち、自らの人生も豊かにする。

□■地域に開き、人が集う場をつくる。

- ・地域に出かけ、地域の人々の知恵や伝統、生き方を学ぶ。
- ・授業で、環境で、自信をもって人を呼べる学校公開を行う。
- ・学校を子供、PTA、地域の諸活動の場として提供し、協力・支援する。

□■進化し続ける学校をつくる。■□

- ・古きを学ぶとともに、一步時代を先取りした教育活動を展開する。
- ・学校内外の評価の充実と、その結果に基づく進化を進める。

□■保護者・地域の信頼を得る。■□

- ・保護者・地域の願いを情をもって受け止め、各家庭・地域の特質を理解し尊重する。
- ・保護者・地域に分かりやすく伝え、相談にのり、時には啓蒙し、信頼関係を築く。
- ・保護者・地域の情報交換の場を設定し、家庭・地域での教育を支援する。

5 行動目標

学校経営は、教職員一人一人が、自らの役割と権限と責任を自覚し、進行管理を確実にを行うことで成立・機能する。「いつまでに、誰が、何を、どのように行うか」を明確にし、だけでもわかる数値を含んだ具体的な目標を設定し、達成していきたい。何よりもまず、以下の点について、子供に求める前に、教職員自ら率先・垂範し、信頼・敬愛を得ることに尽力する。

- 礼儀作法を徹底する。「返事、あいさつ、言葉遣い、来客・電話の対応、服装等」
- 健康安全で規則正しい生活をする。
- 法令等を遵守し、公務員としての自覚をもつとともに、社会人としてのマナー・常識を踏まえた言動をとる。
- 防犯意識、および地震、火災等の災害から身を守る意識を高める。
- 事故を事件にしない。人災を起こさない。「居る・存るべき場所に居る・存る。」
- 計画を立案・共有・実施・記録・点検・評価・改善する。(例:授業の計画と評価の実施・見直し)
- 授業のクオリティーを高めるための、教材研究、研究、準備、記録、評価は特に大切。
- 研修の成果を日常の授業に取り入れる。共有・還元も大切。
- 快適な生活・学習・仕事空間づくりを推進する。
- OUTPUTの原則(報告・連絡・相談)とINPUTの原則(迅速・的確・誠実)に徹する。
- 前例にとらわれることなく、「何のために」を合い言葉に教育課程を見直し、子供の成長に資する教育活動を展開する。
 - いじめや生活の乱れ、非行、不登校の兆し、心のサインを見逃さない。
 - 生命・人権・人格を脅かし傷つける言動を許さない。見逃さない。
 - 体罰・セクハラ・服務事故等の厳禁。

6 教育課程届けと自己申告・自己評価

教育課程届けの内容と自己申告の記載内容は、飾りではない。教育活動は、すべて、これを基調として行われる絵に描いた餅とならぬよう常に基本に沿った教育活動を展開するよう。また、一人一人の教育実践や全教育活動は、常に自己評価しつつ、子供の健やかな成長にとって意味・意義のある教育実践を丁寧に積み重ねていきたい。

平成23年度行政職員の組織目標（学校事務・栄養士）

東久留米市立第十小学校 校長 酒井 賢

テーマ：スピードと正確さ・公明さ

本校の教育目標を具現化するために編成された平成23年度の教育課程の完全実施と学校経営方針の実現を目指し、教育内容の充実と教育環境の整備の観点から次のように組織目標を設定する。

1 方針

学校予算は、十小の子供たちに対する教育に必要な経費として配当された税金である。このことを常に念頭に置き、最小の予算で最大の成果を上げられるよう、できるだけ無駄を省き、有効活用していく。（費用対効果）また、学校の重点課題である児童の安全管理についても、本校の職員として役割を分担し、積極的にかかわるようとする。

2 具体的な目標

(1) 予算管理・執行管理を適正に行う。

適正な予算管理と執行管理を行うため、適正な手順で文書処理を行うとともに、関係書類と諸帳簿の適切な処理と管理を行う。

具体的には、予算執行に関わる各書類及び諸帳簿の処理、予算執行、郵券、集金、通帳の管理などを複数の目でチェックしながら適正に行う。

(2) 備品の管理と活用を適切に行う。

購入した備品が有効に活用されるように全職員に対して指導・助言を行うとともに不必要になった備品は適切に廃棄処理を行うようにする。また、昨年度作成した備品台帳と備品との照合を定期的に行い、台帳と備品が常に一致するよう備品管理を適切に行う。

(3) 施設・設備の管理を適切に行う。

管理職や市教委との連絡・調整を図りながら、計画的かつ迅速に施設・設備の整備と充実に努める。また、安全管理と教育環境の整備の観点から、自らの目でも施設・設備を日常的・定期的に点検し、管理職と相談しながら、迅速・適切に補修・改善を行う。

(4) 適切な事務手続きと懇切丁寧な対応を心がける。

職員の給与・旅費・通勤手当等の支給や福利厚生等にかかわる事務手続きを適切に行うとともに、来校者や電話への対応は懇切丁寧に行うようにする。

(5) 文書の適切な処理と管理を行う。

適切な文書の処理と管理ができるようにするとともに、文書の開示請求等に対応できるようにしておく。（特に保存期限を過ぎた文書と個人情報の適切な処理）

(6) 児童の安全確保に努める。

児童の安全確保の観点から、来校者には受付で必ず一声かけ、人物や来校の用件等を確認するようにする。また、事務室前の昇降口の開閉を確認し適切に対応する。

(7) 厳正な勤務を心がける。

地方公務員として、関係法令や上司の命に従うようにするとともに、勤務時間を守り、勤務時間内は職務に専念するようにする。また、公職に携わる者として、業者との癒着、不正な支出、横領等、学校や職の信用を失墜するような行為は絶対に行わない。

3 重点課題

◎学校給食の未納は、社会問題となっているが本校も例外ではない。むしろ、私費会計として危機管理が必要である。もし、本来の仕事ではないという意識があれば変えて頂きたい。給食費未納は、学校教育の危機であると認識し給食費の未納をなくしたい。

◎事務は、スピーディーに、正確に、時期を失わない執行を行う。

◎公務員としての自覚を持ち、都民（保護者、地域、関係者）サービスの精神を持つ。

◎特に電話の対応は、丁寧に親切に行う。（学校の良いイメージづくりは事務室からです。）